

学ぶ先にあるもの

内山 茜さん

夏休みの八月九日、長崎の子供達は朝から学校へ行く。私も長崎に住んでいた頃は原爆で亡くなられた方々のために祈ることは当然でした。

しかしその考えは引越先のアメリカで変わりました。ある日、授業で太平洋戦争について学ぶ機会がありましたが、私はナガサキについて語られると勝手に思っていました。しかし、その授業の大半を占めたのは真珠湾攻撃の話で、多くの命が失われたことを知りました。戦争といえば原爆と思っていた私はとても驚きました。

考えてみれば、戦争で被害にあったのはなにも日本だけではありません。戦争で失われた命はどの国でも同じひとつの尊い命なのです。

アメリカから私はここ横浜に来ました。横浜では八月六日、九日、十五日でさえも黙祷のサイレンはなりません。どうして同じ日本で起こったことなのに無関心なのだろうと腹が立ちました。しかし、横浜の中学生は横浜大空襲について学んでいました。私はそれまで横浜大空襲を知りませんでした。怒りを感じていた自分がとても恥ずかしくなりました。無関心だったのは私のほうだと気づいたからです。確かに私は長崎で沢山の平和教育を受けてきました。ですが、それらは全て与えられたものであり、それだから原爆以外の戦争のことに無関心だったのではないのでしょうか。

国際平和のために今私ができること、それはまず、主体的に物事を考える力を持つことです。原爆、真珠湾、横浜大空襲の悲劇を受け身で学ぶだけではなく、なぜ戦争に突き進まなければならなかったのか、多方面から見つめ、考えたいです。それは何も戦争だけの話ではありません。世界には、民族対立、女性差別、経済格差など多くの問題があります。それらを理解するには決して与えられた情報だけで満足するのではなく、自分自身が率先して学んでいく力を身につけなければならないと思います。

どの命も失ってはならないことを心に浮かべながら、様々な意見に耳を傾けられる柔軟な心を持ちたいです。

その先に平和があると信じています。